

高齢者住宅新聞

2018年11月7日 8面

高齢者住宅新聞

2018.11.7 (毎週水曜日発行) (8)

ヒューマンHD

練馬区初の看多機

地域に根差したケア提供

ヒューマンホールディングス傘下のヒューマンライフケア（東京都新宿区）は、練馬区で看護小規模多機能型居宅介護とグループホームが併設した「大泉学園の宿・ヒューマンライフケア大泉学園グループホーム」を2016年より運営している。練馬区唯一の看多機として地域に根差したサービスを提供している。



地域包括本部
北関東エリア
中島尚文マネージャー

「大泉学園の宿」の利用者は平均介護度4、定員29名に対して20名程度を受け入れている。看護師8名、介護スタッフ8名、ケアマネ1名が勤務。医療ニーズが高い利



▲大泉学園の宿外観

用者に対応するため、看護師が定期的にミーティングを行い、利用

者の状態や連絡事項などを共有してケアの質の向上を図っている。また、家族の負担軽減を目的に、連絡ノートや電話連絡などを通じて家族と密に連携している。

片麻痺や圧迫骨折の利用者が多いため、訪問マッサージの事業者によるセミナーを開催。セミナーで行った、



▲オープンカフェの様子

音楽のリズムに合わせて体操することで骨を強くする「骨骨（こつこつ）体操」は、食事の前に行う体操として取り入れている。

喀痰吸引を指導

また、喀痰吸引が必要な利用者の家族に対しては、看護師がレクチャーする。現在、介護スタッフ2名が喀痰吸引の資格を保有。今後、自治体の補助を活用しながら、喀痰吸引



▲セミナーを開催

の資格保有者を増やし、医療ニーズの高い利用者に対応できるようにするという。

「看多機は小規模の特性を活かして、利用者一人ひとりと向き合ったケアができる。医療ニーズが高い人が在宅で過ごすことをフォローするので、家族との連携が重要になる」（地域包括本部北関東エリア中島尚文マネージャー）

練馬区初の看多機と

医療

なったため、地域に理解してもらうことを目的に内覧会を開催したり、施設の駐車場でオープンカフェなどのイベントを開いたりしている。また、2カ月に1回開かれる運営状況を知らせる運営推進会議では、地域の行政や家族など10〜15名参加しており、熱心な人が多いという。